

2025年度 核融合科学研究所 ITER インターンシップ参加支援
実施報告書

2025ITER インターンシップ			
参加支援受給者	所属機関： [REDACTED]	学部学科等名・ 学年： Master of Business Administration・ Class of 2025	氏名： 宮澤 啓
参加支援受給者 連絡先	電話： [REDACTED]	E-mail： [REDACTED]	
研修期間 (事業支援期間)	2025年1月6日～2025年7月5日(181日間) (2025年4月1日～2025年7月5日(95日間))		
研修トピック	INTERN-ADM-Administrative support internship in Administration Department (ADM), Finance & Project Control Division (FPC), Building & Construction Project Control Section (BCPC)	カテゴリー	A
得られた成果等 (行数は適宜増や してください)	<p>1. 本インターンシップでの研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADM部ポータルの開発・制作の支援 ・Primavera Cloud プロジェクト管理システムの移行支援 ・Power BI を用いたデータ分析・ダッシュボード制作の支援および組織内知識の向上 ・CPO部のCPSBダッシュボード改善 <p>2. 本インターンシップによって得られた成果のうち特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト管理基幹システム「Primavera Cloud」の導入支援（各部署とのコミュニケーション、トレーニング実施支援、システムベンダーの対応支援、ユーザー管理支援など） ・ITER日本人職員、Construction Project Office、Finance Divisionを対象としたPower BIを用いたデータ分析および可視化の勉強会実施 ・ITER Construction Project Steering Board Dashboardの改善提案 <p>3. 自分自身の今後の研究等への効果や核融合コミュニティ拡張への活用等について</p> <p>大規模建設プロジェクトに伴うスケジュールとコスト管理 (Earned Value Management) の考え方や実務、さらに国際協力における運用について、ある程度の理解を得ることができた。コスト管理面と建設現場との連携についてはまだまだ改善の余地があると思うので、私がITERプロジェクトに参画した際には、その部分でバリューを発揮できるようにしていきたい。</p> <p>4. 研修先研究者（グループ）の熱意、態度、研究レベル等に関して参考となる事項</p> <p>コストに対する意識の高さが非常に印象的だった。建設プロジェクトはスパンが長く、積み上げ型のプロジェクトマネジメント能力が求められる業務であると実感。さまざまな不測の事態が発生する中で、リスクを織り込んだうえでのコストとスケジュールの管理が極めて重要であること、そしてその判断の基礎となるデータの蓄積と可視化の重要性についても深く学ぶことができた。</p>		

※ 次頁に続きます。

	<p>5. 日常生活の様子やその他の感想等</p> <p>私は家族帯同でインターンに参加していたため、予算の関係からマノスクに居住した。現地では、車がないことによる生活上の制約が非常に大きいと感じた。多くの日本人職員の方々が親切にしてくださり、「必要があれば車を出します」と仰る場面もあったが、日々の生活において、例えばスーパーへの買い出しや駅・街への移動のたびに毎回お願いすることには抵抗があり、徒歩で生活した。また、地域にはUber やタクシーもほとんどないため、徒歩で片道 40 分かけてスーパーへ行く必要があり、週末も自由に外出できないなど、生活に不便さやストレスを感じることも多くあった。</p> <p>特に非 EU 圏から来ているインターン生にとっては、現地での運転に必要な特別免許の取得に対して、ITER から何らかの支援があると、生活の質が大きく向上するのではないかと感じた。</p>
	<p>6. この支援の改善すべき点において参考となる事項</p> <p>支援制度自体は非常に良いと思う。日本からの学生の参加者を増やす上で非常に重要な制度で、今後も続くことを願っている。敢えて改善点をお伝えするのであれば、支援金額と入金までのスケジュールを学生に早めに伝えたほうが良いと感じた。また、インターン募集の項目にも明確に記載があれば良いと思った。そうすれば、少なくとも金銭面でインターンを諦める学生候補者は減らせると思った。</p> <p>また、インターン受け入れを行う ITER 側においては、インターン受け入れについてまだまだ改善の余地があると思う。感じた点を以下に記載する。</p> <p>【ITER のインターン受け入れに対する所感】</p> <p>インターン生に対して期待される役割と業務内容を明確にし、適切なタスクを与えてコミットメントを促すことが重要だと感じた。私自身の経験に加え、他のインターン生においても、研修期間中に十分な業務が与えられず、時間を持て余しているケースが散見された。インターン生にもより積極的に業務を任せることが望ましいと考える。</p> <p>また、的確なフィードバックや指示を出すことはスーパーバイザーの大切な役割であるが、現状ではその仕組みが制度化されておらず、個々のスーパーバイザーの裁量に大きく依存している状況だった。この点についても、一定の枠組みや仕組みが必要ではないかと感じた。例えば、月に 1 回程度、スーパーバイザーからのフィードバックの機会を設ける制度があると、インターン生の成長やモチベーション向上に大きく寄与すると思う。</p> <p>貴重な人的リソースを最大限に活用するという観点からも、インターン生に対してより実践的かつ責任ある業務を与えることで、組織にとってもより大きな成果を期待できるのではないかと感じた。</p>
備考	なし